

## 会 議 録

会議の名称	令和7年度那珂川市環境審議会（第1回）		
開催日時	令和7年10月31日（金） 15:00～16:30	開催場所	勤労青少年ホーム 2階1・2会議室
出席者	<p>1. 委員 朝廣委員、田口委員、熊谷委員、中島委員、山口委員、八代委員、原口委員、比嘉委員、本田委員、川崎委員、池田委員</p> <p>2. 執行機関（事務局） 江藤環境課長、渡邊環境課長補佐兼ゼロカーボンシティ推進担当係長、藤澤生活環境担当係長、高崎ごみ減量推進担当係長、岩崎ゼロカーボンシティ推進担当</p> <p>3. その他 備前グリーンエネルギー株式会社（コンサルタント）1人</p>		
公開区分	<input checked="" type="checkbox"/> 開示    ・ <input type="checkbox"/> 一部開示    ・ <input type="checkbox"/> 非開示		
<p>議題及び審議の内容</p> <p>1. 委嘱状交付</p> <p>2. 開会あいさつ</p> <p>3. 自己紹介</p> <p>4. 概要説明</p> <p>5. 会長・副会長の選任</p> <p>6. 議題</p> <p>（1）第3次那珂川市環境基本計画年次報告書（令和6年度版）について ＜事務局より説明＞</p> <p>委員：前回 PFAS について指摘したが、その後、水道企業団から PFAS が検出されなかったことが公表された。市民の安心のためにも、検出されなかった旨を市から公表していくことが重要ではないか。</p> <p>事務局：前回、市の広報での掲載は難しかったため、水道企業団から公表してもらった。</p> <p>委員：林業の担い手不足に対する啓発が近年あまり見られない。下草刈りなどの体験を通じて実際に関わる機会を設け、子どもたちへの啓発も含めて、将来の職業選択の一つとして意識してもらうことが重要と考える。また、外来生物については昨年度3回啓発を行っているものの、十分に浸透しているとは言えず、回覧の活用や希望者への資料配布など、個々への周知が大切である。実際に住宅の天袋に巢</p>			

を作る例も聞いており、回数よりも理解促進を重視した取組が必要と考える。さらに、以前実施したビオトープでの体験活動についてはその後継続されておらず、県の所有ではあるものの那珂川市内にあるため、有効活用を図ってほしいと考える。

事務局：林業の担い手不足については、子どもたちに体験の機会を提供することが有効手段であると考えており、農林課へ働きかけを行っていききたい。外来生物に関する啓発については、これまでセアカゴケグモに重点を置いた内容となっていたが、指摘のとおりハクビシン等も含め、地域の実情に応じた啓発方法を検討していく。また、ビオトープでの体験活動についても、今後その実施方法等を検討していく。現在、ビオトープは自然環境観察員が調査をしているため、結果については環境フェアなどで行う予定としている。

委員：セアカゴケグモは那珂川市での事例はあるか。

事務局：流入か繁殖しているかは不明だが、那珂川市内でも確認事例がある。頻度は気温が高いほど生存率が上がっている。今までは越冬できなかったが温暖化の影響があると思う。

事務局：発生地点はJR車両基地や自動車整備工場などで、流入による可能性が高い。

委員：そういう情報は流していただきたい。

委員：荒廃農地の減少はなにか要因があったのか。

事務局：農地転用により別の用途で利用されていることが、減少の要因と考えられる。

委員：自然環境調査の実施回数・外来生物の啓発回数・イベント実施回数は、自然観察会をビオトープで実施したものか。

事務局：自然と触れ合うイベントの実施回数については、ビオトープでの実施分は含まれていない。計上している3回は、春日市の星の館で実施した親子星空教室であり、3回行ったものである。自然環境調査の実施回数がビオトープでの調査を指して、8月・11月・1月の計3回実施したものである。

委員：自然環境観察員への呼びかけは行われているが、一般市民への呼びかけは十分ではないように感じるので、検討をお願いしたい。

事務局：検討する。

委員：P.17の進捗状況について、熱中症搬送者数など少ない方が望ましい指標の値が疑問である。計算方法を確認したい。また、水洗化率の算出方法は、水洗化率は下水道と浄化槽になるが、汚水処理場人口普及率は下水道と合併浄化槽の足し算で水洗化率になっているが、単独浄化槽も入っているのか。単純に水洗トイレがあるという

ものなのか、汚水処理できているところを出しているのか。

事務局：熱中症搬送者数については、19.1%は目標値9人に対して47人で割った数値で、一律で同じ計算式を入れていた。目標値が下がるものに対しては計算式を確認し再考する。

下水道の水洗化率については、既に下水道管を入れているところについて、その管に接続している世帯の比率を出している。浄化槽については、市が設置する浄化槽があり下水道と同じような位置づけで、個人で設置している単独浄化槽についてはほぼなかったと認識している。ここでいう水洗化率は合併処理浄化槽を含めたものである。

委員：2ページの「雨水下水処理水」は「うすい」「あまみず」の読み方は。

事務局：下水と関連付けると「うすい」という読み方になるかと思う。

委員：統一した方がいいのでは。

委員：自然環境調査は、定点カメラで今でも行っているのか。

事務局：自然環境観察員と合同で定点カメラを設置して調査を行っている。

委員：2ページの環境目標2に関して、市民が分別を適切に行うことで税金にどのような影響があるのかといった点を、市民向けに啓発する必要がある。そうした情報発信がないと、分別意識が薄れてしまうのではないかと感じる。

事務局：市民への分別については、引き続き周知を図っていきたい。多量排出事業者については、延床面積1,000㎡以上の規模の大きい事業者を対象に、自社の廃棄物量を把握してもらうため、減量計画書の提出に協力をお願いしている。

委員：10ページの新規就農者1名の確保で達成度がBとなっているが、その理由は何か。

事務局：新規就農業に適した優良地が少ないことが要因である。

委員：集約が進んでいないということか。

事務局：耕作に適した立地が市の北側はほとんど埋まっており、南側は荒廃農地はあるが農業をするには不便な場所が多く優良な土地がない状況である。

委員：12ページ、自然教室の講師派遣方針の転換により中止となったとのことだが、その事情は。

事務局：派遣できる講師がいなかったためである。

委員：林業の担い手育成については、緑の人材を育成する仕組みがない。  
委員：森林環境税の活用方法として、人材育成の仕組みを構築してはどうか。

委員：有害鳥獣対策も深刻な課題である。

委員：有害鳥獣被害の状況は把握しているのか。

事務局：農林課が担当している。

委員：動物の死骸がどこで確認されたかを把握しているのか。

事務局：どのような動物の死骸があったかは把握しているが、地域ごとの詳細までは把握していないため、検討していく。

委員：環境課と農林課の連携をより密にしていく必要がある。

委員：アユの放流は農林課なのか。

事務局：環境課である。

委員：放流するアユの稚魚の仕入れ先も把握しておいた方がいい。

事務局：卵は山口県で、朝倉で育てて、それを放流している。保管研で生態系が乱れないか尋ねたら問題ないとの回答を得ている。

委員：山口県のどこの川かわかるのか。

事務局：そこまでは把握していない。

委員：報告書は誰を対象に作成しているのか。

事務局：市民向けである。

委員：表紙の稲の写真の意図は何か。以前はカワセミや公園など環境をイメージできるものが使用されていた。

事務局：今回の写真も那珂川市内で撮影したものであるが、地球温暖化による農産物への影響や、令和の米騒動といった時事的な背景を踏まえ、那珂川産のお米をPRする意図で採用した。

委員：市民に見せるものであれば、今の環境をおりこんだものもいい。  
また、前書きの「はじめに」の4項目は箇条書きにしてはどうか。

## 7. 報告

### (1) 除草剤(2,4,5-T系)の状況について

<事務局より説明>

委員：これで完了になるのか。

事務局：そのように聞いている。

### (2) ワンヘルス推進宣言について

<事務局より説明>

## 8. その他

### (1) 第18回環境フェア in なかがわ

<事務局より説明>

(2) 次回の日程

<事務局より説明>

以上